千葉県税理士会船橋支部　支部長賞

税は未来への投資

船橋市立前原中学校
第三学年　田中　陽菜

私はこれまで、税は大人が払うお金で、私の生活とはあまり関係のないことだと思っていた。ＳＮＳで「増税」という言葉を聞くとなんとなく大変そうだという印象しかもっていなかった。しかし、この作文を書くためインターネットやＡＩを使って学んだり、船橋市の取り組みについて調べるうちに、税は私たちの未来をより良くするための投資なのだと気づいた。税は、今の生活を支えるだけでなく、これからの社会をつくるために使われている。

このことを実感したのは、学校の設備が新しくなった時だった。私の中学校では電子黒板やＰＣが導入され、授業がとても分かりやすい。動画などを使った授業は理解しやすく勉強に小学校より意欲的に取り組めるようになった。インターネットで調べてみると、船橋市では、市内の学校にＩＣＴ環境を整備する取り組みを進めている。その費用には税が使われているという。私たちが新しい学び方を体験できているのは、未来の社会を支える人を育てるために、今の教育に投資しているからなのだと知った。

また、私の学校は災害時の避難場所にも指定されている。日本は地震や台風が多い国で、つい先日も熊本で大きな地震があった。たまに電柱に小学校や中学校が避難場所と示しているかんばんがあるのを見る。体育館や校舎が耐震化されているのは、災害が起きたときに多くの人が安全に避難できるようにするためだ。備蓄品が整えられていることも知り、普段は気づかないところで多くの準備がされていることを知った。これらの整備にも税が使われている。災害はいつ起こるかわからないが、未来の命を守るために今から備えることは、まさに未来への投資だと思う。

もし税がなかったらどうなるだろう。電子黒板やＰＣは導入されず、授業は昔のままで、学びの幅が狭くなってしまうかもしれない。校舎の耐震化が進まず、災害が起きたときに避難場所として十分な役割を果たせない可能性もある。そう考えると、税はただ取られるものではなく、未来の社会を守るためにみんなで出し合う大切なお金なのだと感じるようになった。

税について学ぶ前は、税は「大人が払うもの」というイメージが強かった。しかし今は、私は未来をより良くするための共同投資だと考えるようになった。教育や防災など、未来のために使われている税は、私たちの生活を支えている。大人になったら私も税を払うことになるが、それは未来の社会をつくるための大切な役割だと前向きに考えたい。税について学んだことで、普段の生活が多くの人の支えによって成り立っていることに気づいた。これからも、身の回りの公共の施設やサービスに目を向けながら、税の意味を考えていきたい。